

北海道浮魚ニュース

令和元(2019)年度5号

2019年6月13日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎道東太平洋イカ類北上期資源調査結果

調査船・北辰丸により実施したスルメイカ資源調査の結果をお知らせします。

調査海域におけるスルメイカの分布密度は低かった。

調査期間：2019年6月5～11日

調査海域：道東太平洋（北緯41度線上の7調査点）

調査船：北辰丸（釧路水産試験場所属）、イカ釣機5台装備

調査方法：イカ釣機による夜間釣獲調査、CTDによる海洋観測

1. 水温分布（図1）

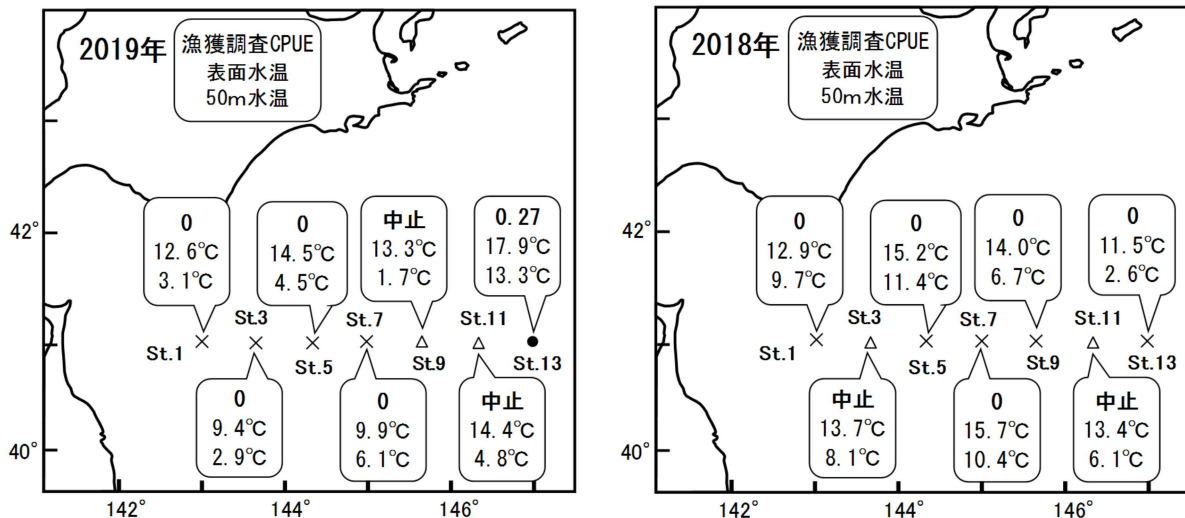


図1 各漁獲調査点でのスルメイカの漁獲調査結果と表面および50m深水温（左：2019年，右：2018年）。●は漁獲あり。×は漁獲なし。△は漁獲調査中止

漁獲調査点7点の表面水温は9.4～17.9℃（昨年11.5～15.7℃）、50m深水温は1.7～13.3℃（昨年2.6～11.4℃）の範囲にありました。昨年同時期の調査との比較では、表面は7地点中5点、50m深は7地点中6地点で昨年水温を下回り、特に50m深の水温が低い傾向がみられました。最も東側のSt.13では、表面・50m深ともに昨年を大きく上回る水温となっていました。

2. 分布密度（図1、図2、表1）

各漁獲調査のCPUE（イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）を基準としてスルメイカの分布密度を調べました。漁獲調査点7点のうち5点で漁獲調査を実施し、うち4点は漁獲がなく、最も東側のSt.13で4尾（CPUE：0.27）のみの漁獲がみられました。全調査点の平均CPUEは0.05で、漁獲がみられなかった昨年（平均CPUE：0）を上回ったものの1993年以降で3番目に低い値となりました。

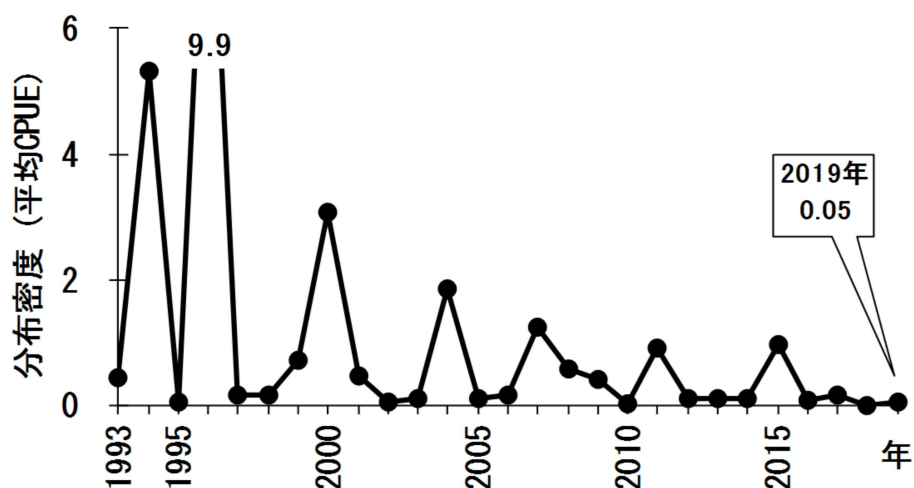


図2 スルメイカの分布密度（平均CPUE）の経年変化

表1 2010～2019年のスルメイカ調査結果

調査日程	漁獲尾数	平均CPUE	外套長組成		調査点数
			範囲(cm)	モード*(cm)	
2010年 6/7～14	8	0.03	13-16	15	7
2011年 6/7～14	268	0.92	6-19	16	7
2012年 6/9～16	29	0.10	6-11	10	7
2013年 6/3～10	15	0.10	5-16	16	7
2014年 6/2～9	20	0.11	13-18	15	7
2015年 6/4～12	159	0.97	13-20	16	7
2016年 6/7～13	12	0.08	14-18	15-17	6
2017年 6/7～15	24	0.16	11-17	15	6
2018年 6/5～11	0	0.00	-	-	5
2019年 6/5～11	4	0.05	10-11	10,11	5

3. 魚体サイズ（図3、表1）

漁獲されたスルメイカ4尾の外套長（胴長）は10～11cmで、過去10年平均に比べ小型となっていました。

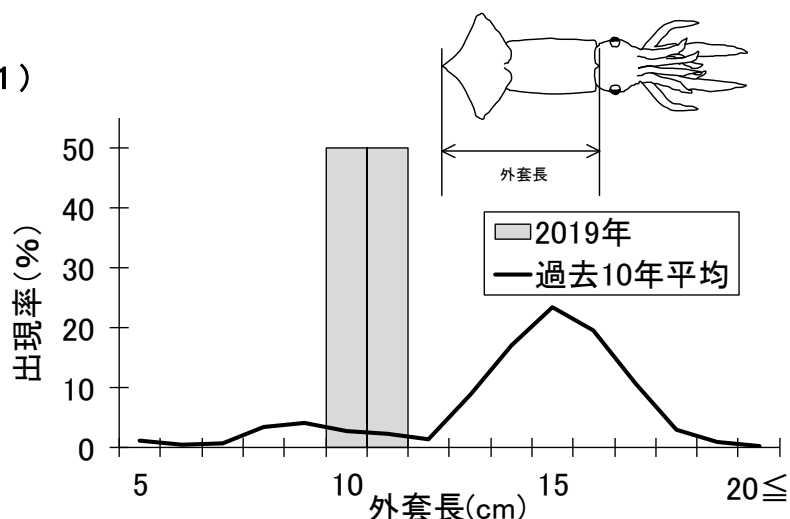


図3 2019年及び過去10年のスルメイカの外套長（胴長）組成

(釧路水産試験場 調査研究部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225)